

世羅町立地適正化計画

第 2 回専門部会 資料 1

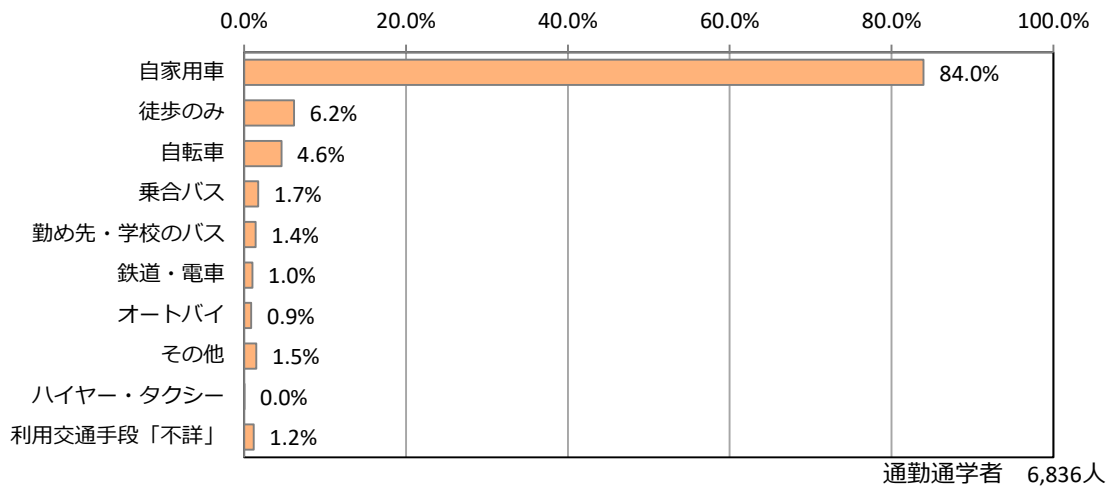
【議題1】第1回専門部会以降の作業報告

- | | | |
|----|----------------------|---|
| 1. | 第1回専門部会の意見への対応…………… | 1 |
| 2. | 町民アンケート調査の結果報告 …………… | 5 |
| 3. | 庁内ヒアリング調査の結果報告…………… | 7 |

2024 年3月27日

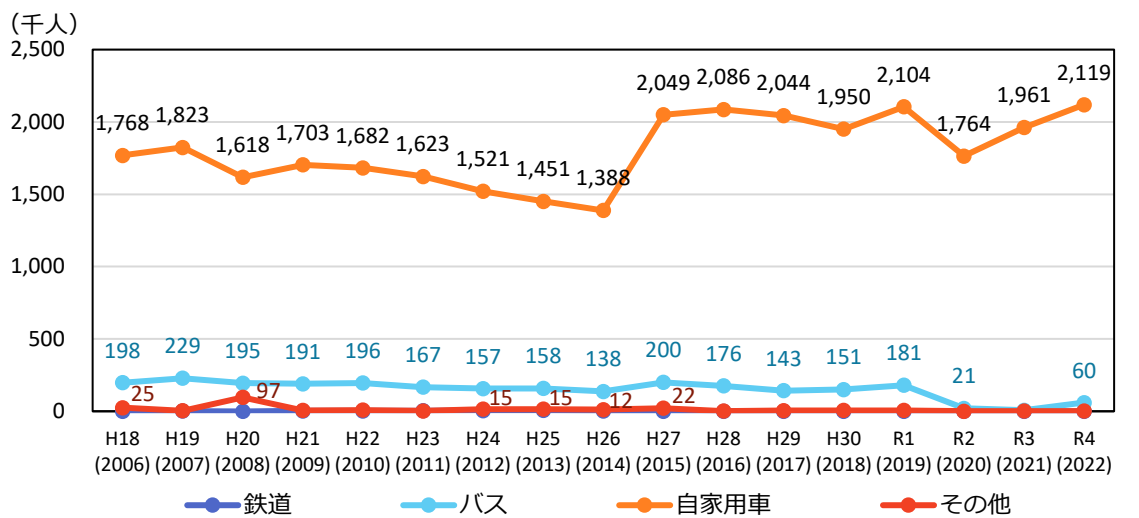
1. 第1回専門部会の意見への対応

○通勤通学移動の交通手段別整理



出典：令和2年国勢調査

○観光客の移動手段に係るデータ整理



※10千人未満のラベルは省略

※世羅町内での船舶・航空機の利用人数は全ての年において0人のため表示していない。

出典：広島県観光客数の動向

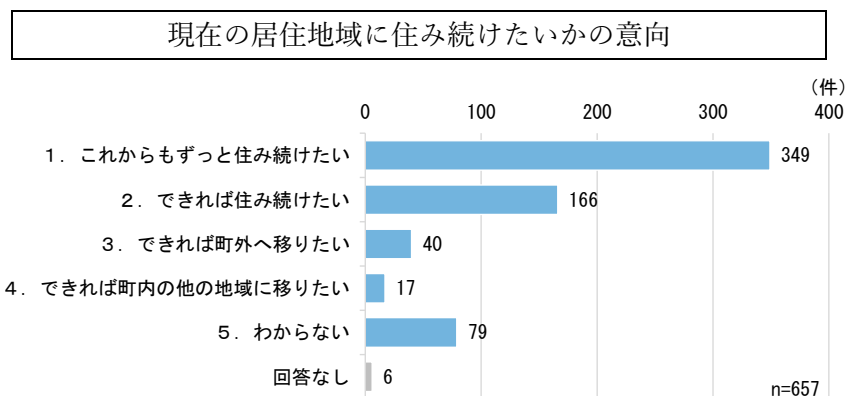
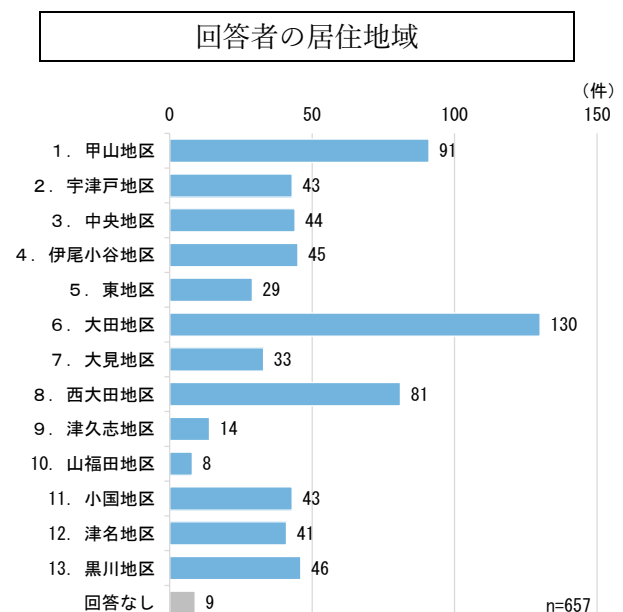
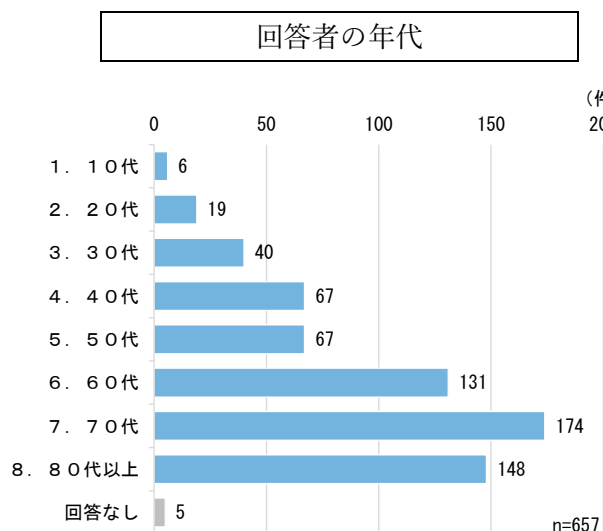
○住民意向の反映・情報公開

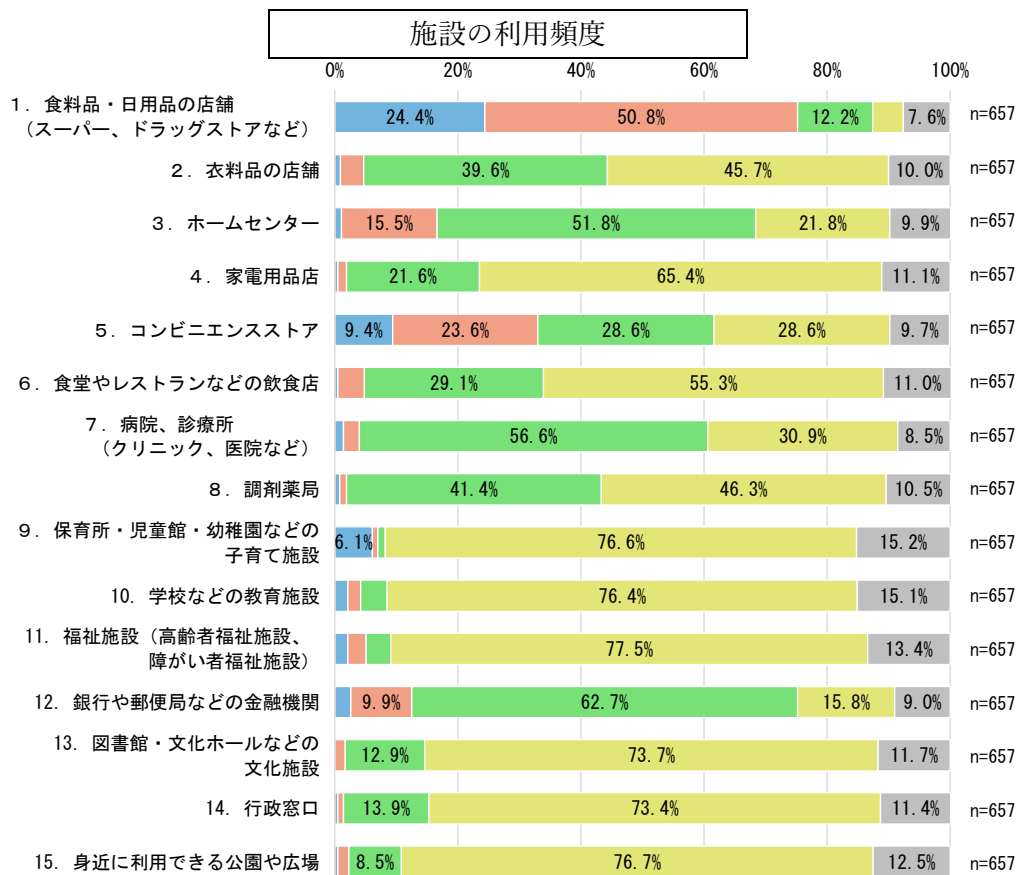
- ・立地適正化計画の策定状況について：世羅町ホームページ準備中
- ・長期総合計画策定時のアンケート調査（R1年実施）結果：随時活用

2. 町民アンケート調査の結果報告

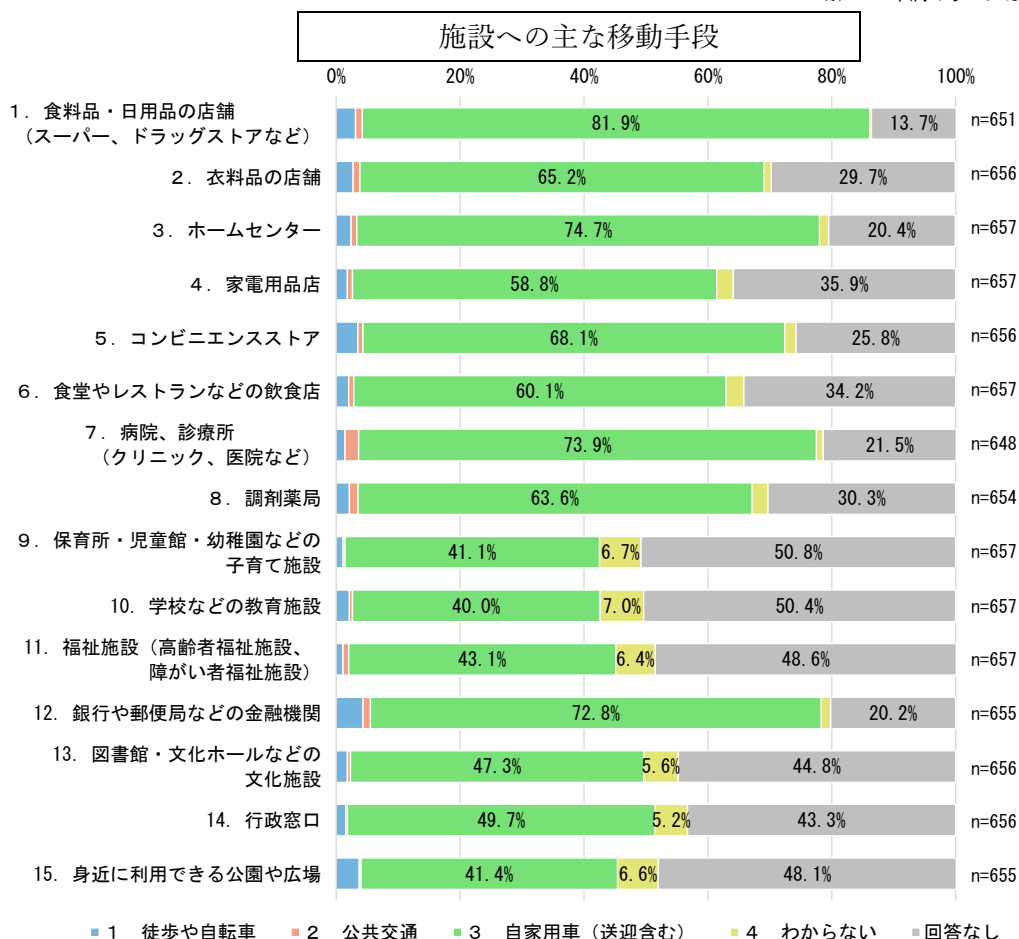
調査対象（抽出先）は、18 歳以上の町民 1,500 人を無作為に抽出

調査期間	調査方法	配布数	回収数	回収率
令和 5（2023）年 10 月 10 日から 令和 5（2023）年 10 月 31 日まで	郵送法	1,500 票	657 票	43.8%
郵送による回答：579 インターネットによる回答：78				
設 問 概 要	アンケート設問は「個人属性」・「都市施設の利用頻度・移動手段」・「日常の移動」・ 「居住と災害対策」等について、全 13 問を設定しています。			
	問 1) 年齢 問 2) 家族構成 問 3) 居住地 問 4) 永住意向 問 5) 各施設の利用頻度と主な移動手段 問 6) 中心部に必要な施設となくともよい施設 問 7) 自治センターの活用方法	問 8) 自家用車の所有状況 問 9) 送迎してくれる人の状況 問 10) 乗り合いタクシーの利用状況 問 11) 徒歩による移動可能時間 問 12) ハザードエリアにおける居住や都市機能立地の考え方 問 13) まちづくりに関する意見		

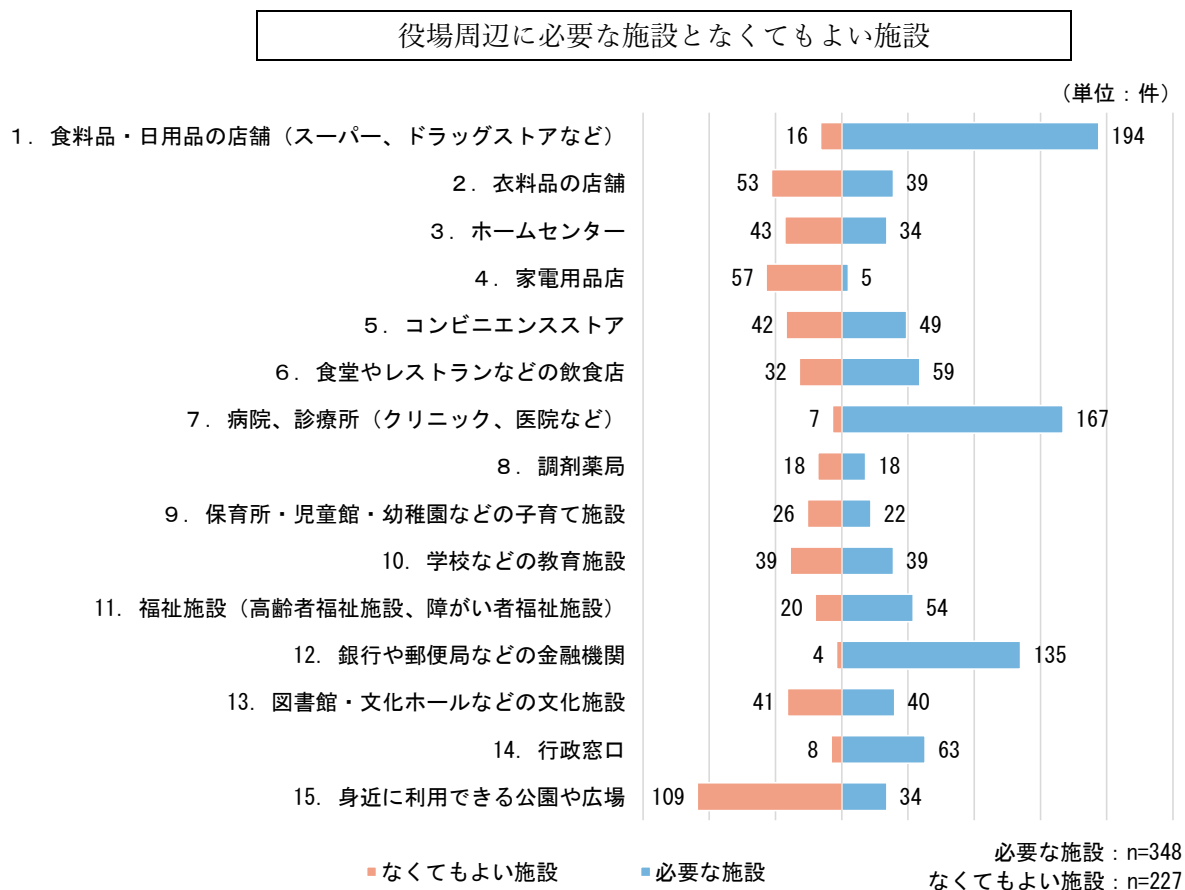
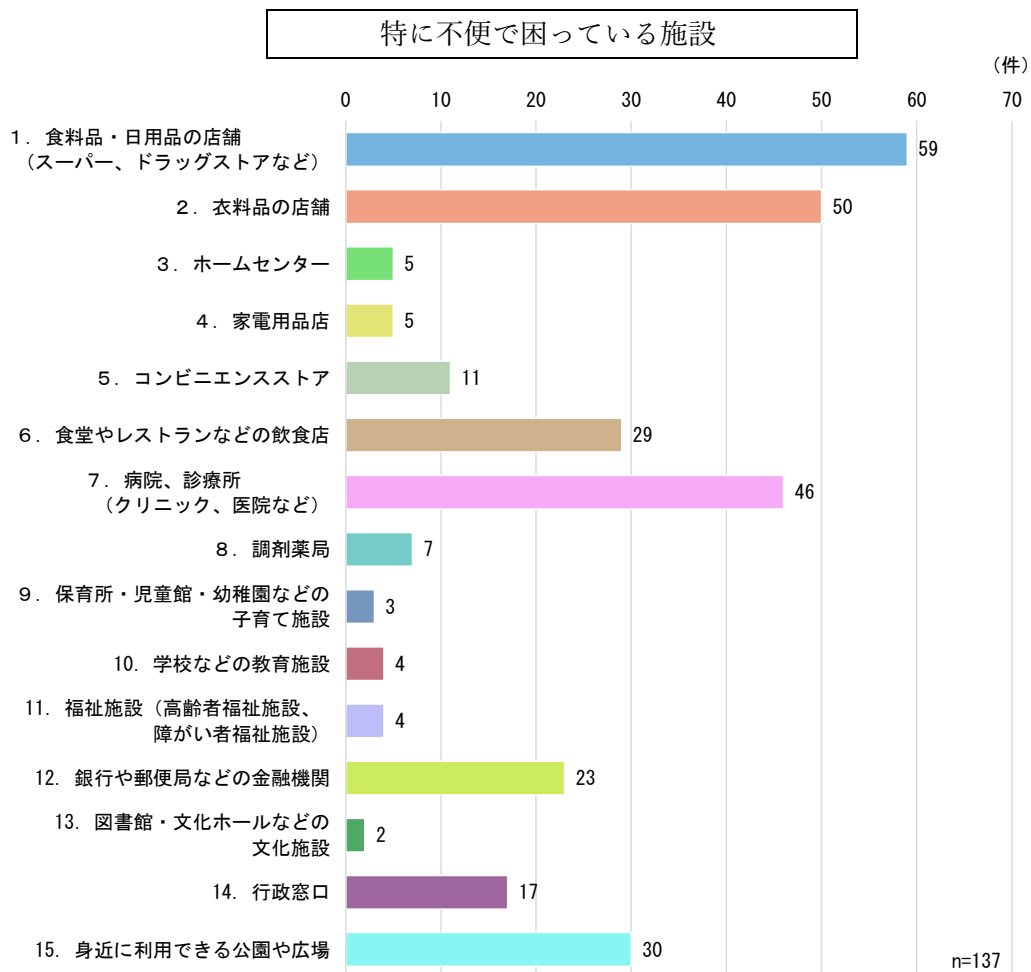




■ 1 週3日以上 ■ 2 週1～2日程度 ■ 3 月1～2日程度 ■ 4 ほとんど行かない ■ 回答なし
※5.0%未満のラベルは省略



■ 1 徒歩や自転車 ■ 2 公共交通 ■ 3 自家用車 (送迎含む) ■ 4 わからない ■ 回答なし
※5.0%未満のラベルは省略



各地域の自治センターの有効活用方法についての意見（概要）

交通・移動手段（バス）・・・16 件

- 乗合バス等の充実
- 格安（無料）バス、福祉バス通学バス等の交通機関の整備をお願いします。でも自宅から自治センターへの移動も年齢によっては難しく、課題だと思います。（一人暮らし、介護（支援）の必要な方）
- 自治センターに送迎用のマイクロバス等の移動手段が気軽に利用できるように、配置されると良いのではないかな。

交通・移動手段（タクシー）・・・15 件

- 情報アクセス…タクシー券、せらまちタクシー等について勉強会の開催。
- 自治センターから乗り合いタクシーを出す
- 気軽に利用できるようにしてほしい。せらまちタクシーの便を増やす。

交通・移動手段（自家用車）・・・6 件

- マッチングアプリのシステムを構築してUber eats の車版のようなものをつくり、自治センターが中心になって、中心部に行きたいけど交通手段がなかったりして行けない人を効率よく連れて送迎できれば良いと思います。
- この先、車の運転ができなくなった時、週1、2回位でも地域の自治センターから中心部への車の乗合があったらどうかと思います。

交通・移動手段（その他）・・・17 件

- 町での移動手段が、いつでも、どこでも、だれでも、が気軽に使える乗り物があれば高齢になっても生活が安心できる。
- 町中心部の近くなので不便は感じないが、中心部外の高齢者は自治センターに相談すると、アセス協力してもらえる窓口を作る。
- 遠慮なく利用できるような体制にしてもらいたい。

小売りや行政サービス等へのアクセス・・・8 件

- 自治センターで移動販売をしてもらう。（週に2、3日程度など）自治センターに行けば買い物が出来るようにしてみてもどうか
- 月に1回でも行政窓口が代行できる様なになればいいのではないですか。
- ネットやスマホで済むことのサポートサービスの実施

自治センターの活用（公共交通以外）・・・12 件

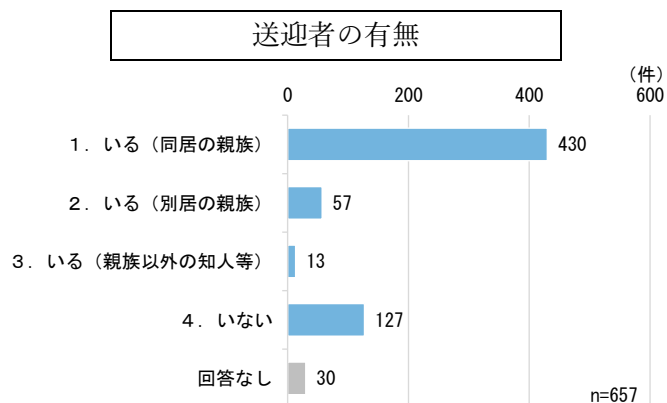
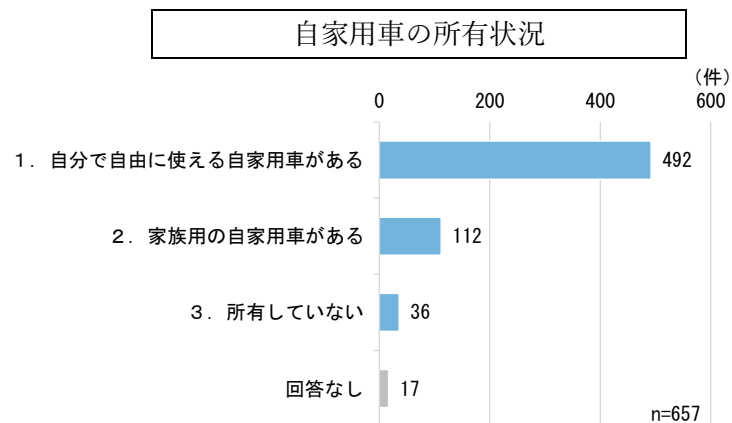
- 自治センターをもう少し利用しやすい、集まりやすい場所にできればいいと思います。
- 高齢者の関心が高い（興味が沸く）事を自治センターで月1回以上は開催する。
- 自治センターの内・外に誰でも自由に集えるスペースがあると良い。気楽に座って話したりお茶を飲んだり、休憩するスペースが欲しい。

利用しない等・・・5 件

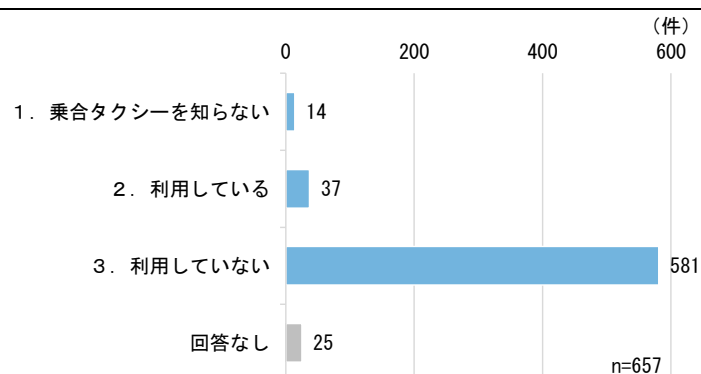
- 自治センターへも遠いし、車へは乗れないし、活用することは出来ません。
- 自治センターと町中心部への距離がそこまで変わらないので、自治センターで何かサービスがあったとしても利用するかどうか分からない。

その他・・・23 件

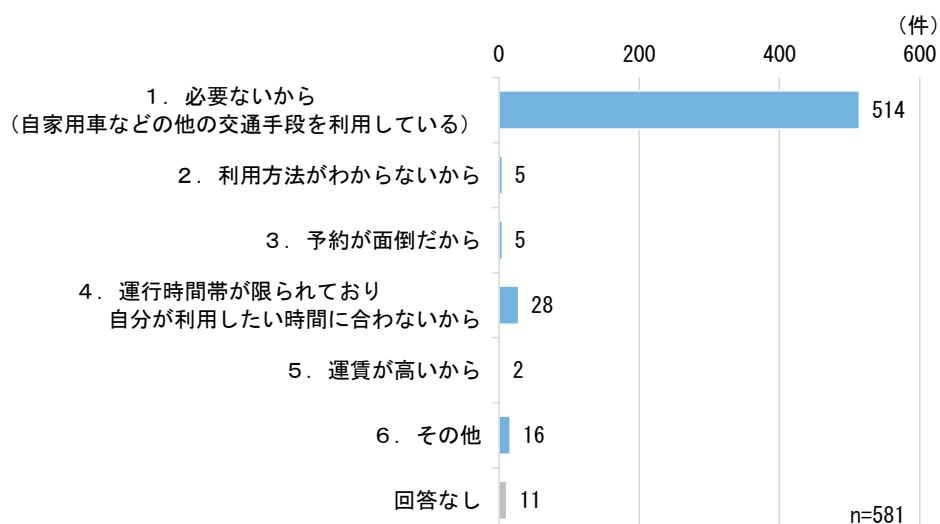
- 将来、車に乗れなくなった時、生活自体が憂鬱になる。今は車があるから毎日買い物に行けるが、歩いて行ける範囲に何もなくて、自治センターまで4キロ以上あるのに行くたびにタクシー頼むのかと不安に思い町外に移りたいと考えてしまう。
- それ以前に自治センターの在り方自体を見直すべきではないのか？役員に過剰に負担がかかり、その役員にも高齢化が進む。抜本的な見直しをお願いしたい。



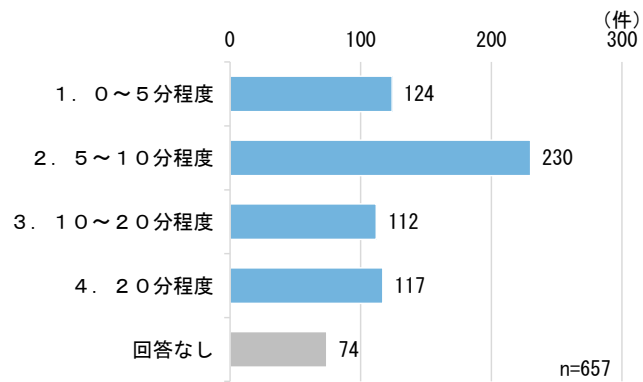
町の乗合タクシー（せらまちタクシー）の利用有無



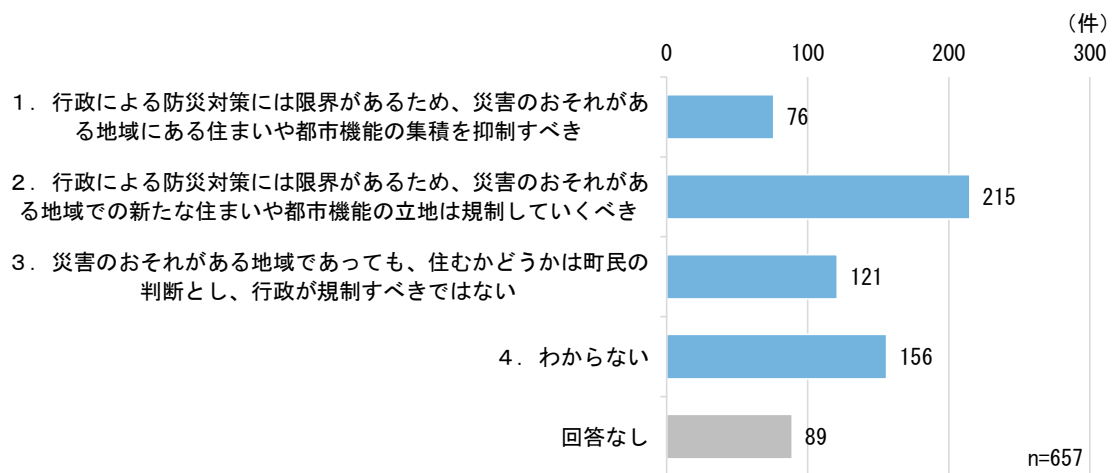
町の乗合タクシー（せらまちタクシー）を利用しない理由



徒歩による移動時間



住まいや都市機能の立地の在り方について



「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見（概要）

「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成…6 件 ●「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成です。世羅町がこれから先持続可能な町であるためには、中心地にある程度の人口や公共施設などが集まっている方がいいと思います。 ●とても良い考えだと思います。安心安全で暮らせる為に必要だと思います。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して慎重、否定的…17 件 ●都市計画区のみが集約しすぎて、外部地域は居住者が全くいなくなり、家や耕作地がなくなり山林は荒れてくる方向に行く様な気がする。 ●コンパクト・プラス・ネットワークの概要を見ましたが、私は反対です。何故なら、田舎特有の家と家との遠からずも近からずな距離感が、外部からの移住者にとって魅力の一つではないかと思うからです。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して賛成とも反対とも言えない…9 件 ●コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの考え方も必要だが、世羅町では過疎・高齢化が深刻なため地域住民がいつまでも住み慣れた地域で生活してゆくための取り組みも必要。 ●古くからの概念で「生まれた地を離れたくない」意識があり、父、母と共に暮らした思い出もある。将来的には町もコンパクトにする必要がある事もよく理解できるが…。
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（中心部もしくは場所の言及無し）…14 件 ●個人的な意見ですが、三次市の市内地（サングリーン周辺）には全国展開の店舗がそれぞれ店を構えている（青山やメガネ店他）が、来客数はいずれも少ない現象があるので地域に集中して様々な店や施設を集めてもどうなのだろうと思う。東広島市の新しくできたゆめモール西条のようなクリニックと店舗の敷地が一体になったような複合型施設の方が賑わう気はします。
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（道の駅周辺）…2 件 ●道の駅の周辺等に公園、ドッグランなど観光資源を生かした町づくりを目指していけばいいと思いますが、どうでしょうか？
今後のまちづくりの全体的な方向性について…17 件 ●人の顔が見えるような繋がれる仕組みがほしい。 ●自助、共助、公助それぞれがバランス良く機能する町づくり。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりの進め方（手法、心構えなど）について…9 件 ●今時点で市街地に居住していない人たちに理解を得られる工夫をして頂きながら、そのまちづくりを進めていってもらえたらありがたいです。
道路や公共交通の維持・拡充を望む…15 件 ●病院や行政、スーパーなどがまとまっていることで、少ない移動で用事が短時間で行える点は良いが、高齢者が安心、安全に行き来できる移動手段が現時点では確保されていないように思う。車を自由に使用できない人は不便で、自身も高齢になった際、免許を返納できるか不安がある。
スーパーの維持・誘致等を望む…4 件 ●大型食料品店（スーパー）が世羅地区に集中しているが、甲山地区にもスーパー食料品、日用品の店があつてほしい。現在あるスーパーは近いが商品がそろっていない為、不便である。
定住が進む・若者が住みやすいまちづくり、子育てしやすいまちづくりを望む…16 件 ●働く場を作って世羅町に人が集まるようにしないとどんどん人口が減っていくと思う。
その他（まちづくりや政策、地域に対しての意見）…15 件 ●空家の外は大きな草で火災に成った時は住んで居る家迄火災になりますので、空家をなんとかしてほしいと思います。
その他（本アンケートの趣旨からやや外れていると思われるが、まちづくりや政策、地域に対しての意見）…11 件 ●（将来）地域の維持の為に役員が多すぎる。生活するのにかえって負担になっている。役員の在り方見直しは、早急に考えてゆくべき事だと思います。
本アンケートや政策の進め方、情報開示について…16 件 ●こういったビジョンがあるのか、進捗はどうなっているのかなど定期的な共有、または情報の発信があれば興味を持つ人は増えるのではないのでしょうか（広報、SNS、HP、TV など）。私はこのアンケートを見るまで知りませんでした。

調査結果（総括）

世羅町に立地する施設

- 利用頻度が最も高い施設は食料品・日用品の店舗で、週に 1～2 日以上利用している回答者が全体で 8 割弱、いずれの地域・年代においても 5 割以上を占めています。
- その他、比較的使用頻度が高い（月 1～2 日以上の利用が半数を超えている）施設は、ホームセンター、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関となっています。
- 現在の居住地に住み続ける意向がある人がほとんどである一方で、約 2 割の人が特に不便で困っている施設があると感じています。
- 役場周辺（町中心部）に必要な施設は、全世代にとってより生活に不可欠な食料品・日用品の店舗、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関の 3 つが顕著に多くなっていますが、これらは現在特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 食堂やレストランなどの飲食店、行政窓口についても、上記 3 つの施設ほど顕著ではないものの、役場周辺（町中心部）に必要な施設、現在特に不便で困っている施設とする回答者が比較的多くなっています。
- 一方、衣料品の店舗、身近に利用できる公園や広場は役場周辺（町中心部）になくてもよいという回答者が多い一方、特に不便で困っている施設としては多く挙げられています。
- 身近に利用できる公園や広場は 30 代、40 代の利用頻度が他の年代に比べ高くなっていますが、特に不便で困っている施設としては 70 代において最も高い割合で挙げられています。

日常の移動

- 自分で自由に使える自家用車、もしくは家族の自家用車がある回答者が 9 割を超え、施設への主な移動手段は、回答なしを除くと自家用車が全ての施設において大半を占めています。
- 送迎者の有無は、いると答えた回答者は 7 割台半ば、気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者は 2 程度となっています。
- 送迎者は、全ての年代で同居の親族が最も多くなっていますが、80 代以上では送迎者が別居の親族である割合が 2 割弱と、ほかの世代に比べ大きくなっています。
- 60 代～80 代以上の世代では、単身世帯、1 世代のみの世帯が半数以上を占めており、本人や送迎者が将来車に乘れなくなった場合、従来よりも移動が比較的困難になることが予想されます。
- せらまちタクシーの利用有無については、利用していない回答者が 9 割弱を占め、また利用していない理由としては「必要ないから」が大半を占めていることから、存在は知っているものの自家用車を使用するためせらまちタクシーを利用しない回答者が非常に多いと言えます。
- 年代別にみると、せらまちタクシーを利用している回答者は年代が上がるほど高くなっており、80 代以上では 2 割弱を占めています。
- 徒歩での日常の移動については、徒歩での所要時間が 10 分以内の回答者が 5 割強を占めています。
- 町中心部へのアクセスについて自治センターをより有効に活用できる方法としては、バスや乗合タクシーなどの発着点としての利用や、小売りや行政窓口等の週単位や月単位での開設を提案する声等が比較的多く挙げられています。

今後の規制への考え方

- 災害の恐れがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する声が 4 割台半ばを占める一方、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではないとの回答も 2 割弱を占めています。
- フリーアンサーでは「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについて前向きな意見、慎重・否定的な意見がともに挙がっており、様々な意見があるが、前向きな意見においては持続可能性の向上を期待する声、慎重・否定的な意見においては中心部以外が住みにくくなっていくことや、田舎暮らしができる世羅町ならではの良さが失われることを危惧する声などが挙げられています。

世羅町に立地する施設（地域別視点）

- 食料品・日用品の店舗の利用頻度は全ての地区において週 1～2 日程度以上が半数を超えていますが、甲山地区、大田地区、津久志地区では特に利用頻度が高く、週 1～2 日程度以上利用の割合が 8 割を超えています。
- ホームセンターを日常的に利用する回答者が多い地域は中央地区と伊尾小谷地区で、それぞれ 2 割台半ばが週 1～2 日以上利用しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店を月 1～2 日以上利用する回答者が多いのは甲山地区、大田地区、小国地区で、それぞれ 4 割を超えています。
- 病院、診療所を月 1～2 日以上利用する割合が高いのは伊尾小谷地区や大見地区で 7 割以上を占め、調剤薬局の利用頻度も他地区と比べやや高くなっています。
- その他の施設においては、利用頻度について地域別に大きな差はみられません。
- 特に不便で困っている施設があると回答した人が多い地域別にみると、甲山地区では身近に利用できる公園や広場や衣料品の店舗、大田地区では衣料品の店舗が多く挙げられています。
- 役場周辺に必要な施設についてみると、食料品・日用品の店舗や病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関、行政窓口は、全ての地域において「必要」が、「なくてもよい」を大きく上回っています。
- 役場周辺に必要な施設について、コンビニエンスストアで回答の多かった地域をみると、甲山地区と小国地区では「なくてもよい」よりも「必要」が上回っており、大田地区については均衡しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店について回答の多かった地域をみると、大田地区、西大田地区、甲山地区では「必要」が「なくてもよい」の倍以上挙げられています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設、学校などの教育施設、図書館・ホールなどの文化施設について回答が多く挙げられている地域をみると、大田地区では「必要」が「なくてもよい」を上回り、甲山地区では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。
- 福祉施設についてみると、大田地区と西大田地区で必要な施設として多く挙げられていますが、西大田地区では「必要」が「なくてもよい」を大きく上回っているのに対し、大田地区では「なくてもよい」という回答も「必要」と同じくらい多くなっています。

日常の移動（地域別視点）

- 施設への主な移動手段は、自家用車が全ての施設・地域で最も多くなっていますが、銀行や郵便局などの金融機関についてみると、甲山地区では徒歩や自転車を選択した回答者が 1 割強を占め、やや高くなっています。
- 自家用車の所有状況は、自家用車を所有していない回答者が全体では 1 割未満となっていますが、津久志地区で自家用車を所有していない回答者の割合が比較的高く、1 割強となっています。
- 送迎者の有無は、山福田地区、大見地区、津名地区で気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者の割合が比較的高く、山福田地区では 4 割弱、大見地区と津名地区では 3 割程度となっています。
- セラまちタクシーの利用有無について、セラまちタクシーを利用している回答者は全体では 1 割未満となっていますが、津久志地区では 2 割を超えています。
- セラまちタクシーを利用していない理由は、すべての地区で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、宇津戸地区では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が 1 割台半ば程度と、他地区よりも大きい割合を占めています。

今後の規制への考え方（地域別視点）

- 宇津戸地区、大田地区、津久志地区において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する回答が比較的多く、合わせて 5 割を超えています。

世羅町に立地する施設（年代別視点）

- 食料品・日用品の店舗の利用頻度をみると、30～70代では週1～2日以上利用する回答者の割合が8割を超えています。
- 衣料品の店舗を月1～2日以上利用する回答者が多いのは20代で、6割強を占めています。
- ホームセンターの利用頻度は40～70代で他の年代に比べ高くなっており、回答者の2割前後が週1～2日以上利用しています。
- コンビニエンスストアの利用頻度は20代で他の年代に比べ高くなっており、回答者の約7割が週1～2日以上利用しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店の利用頻度が他の年代に比べ高いのは20～40代で、月1～2日以上利用する回答者が約6割を占めています。
- 病院、診療所や調剤薬局の利用頻度をみると、年代が上がるほど月1～2日以上利用する回答者の割合が高くなっています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設、学校などの教育施設、図書館・文化ホールなどの文化施設、身近に利用できる公園や広場の利用頻度は、30代と40代で他の年代と比べ高くなっています。
- 銀行や郵便局などの金融機関の利用頻度は、40～50代で比較的高く、50代では2割台半ば、40代では2割弱が週1～2日以上利用しています。
- 家電用品店や福祉施設、行政窓口は、全て年代でほとんど利用しない回答者が大半を占めています。
- 特に不便で困っている施設については、10代や80代では食料品・日用品の店舗と回答した人は3割以上で最も多く、50代では衣料品の店舗と回答した人が3割以上で最も多く挙げられています。
- 役場周辺に必要な施設についてみると、食料品・日用品の店舗や病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関、行政窓口は、すべての年代で「必要」が「なくてもよい」を上回るか同程度となっています。
- 衣料品の店舗については、年代が上がるほど「なくてもよい」が「必要」よりも多くなっています。
- 食堂やレストランなどの飲食店については、60～70代では「なくてもよい」が「必要」を上回っていますが、他の年代では「必要」が「なくてもよい」を上回っています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設については、30代では「必要」の回答が多く「なくてもよい」を上回っていますが、70代では「なくてもよい」が多くなっています。
- 福祉施設についてみると、40代以下では「必要」と「なくてもよい」が同程度ですが、50代以上ではどの年代も「必要」が「なくてもよい」を大きく上回っています。
- 身近に利用できる公園や広場については、30代と40代では「必要」が「なくてもよい」を上回っていますが、他の年代では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。

日常の移動（年代別視点）

- 施設への主な移動手段は、自家用車がすべての施設・年代で最も多くなっていますが、銀行や郵便局などの金融機関では、徒歩や自転車を選択した回答者は10代で1割台半ばを占め、やや高くなっています。
- 自家用車の所有状況は、80代以上で自家用車を所有していない回答者がほかの年代と比べて多く、1割台半ばを占めています。
- 送迎者の有無は、20代ではすべての回答者が気兼ねなく送迎してもらえる人がいると回答しており、他の年代では気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者が2割前後となっています。
- 送迎者は、全ての年代で同居の親族が最も多くなっていますが、80代以上では送迎者が別居の親族である割合が2割弱と、他の年代に比べ大きくなっています。
- せらまちタクシーを利用している回答者の割合は、年代が上がるほど高くなっており、80代以上では2割弱を占めています。
- せらまちタクシーを利用していない理由は、すべての年代で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、10代では「利用方法が分からないから」が4割、80代以上では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が1割強を占めています。

今後の規制への考え方（年代別視点）

- 40～50代において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する回答が合わせて5割を超えている一方、10代、80代以上では3割強と比較的低くなっています。

3. 庁内ヒアリング調査の結果報告

調査期間：令和6年1月17日 から 1月30日（14日間）

調査方法：ヒアリングシートを配付・回収

各課の施設整備に関する主な意向

- 子育て世代が中心部に求めることは、子育て家庭が必要な物品の購入ができる商業施設利用時に子どもを預かってもらう場所や、雨の日に子育て親子が集える場所、遊べる場である。（子どもの居場所づくり）（子育て支援課）

（各課が所管する施設の整備予定）

- 有休公共財産の活用計画として以下がある。（財政課）
 - ・ 世羅小学校北側町有地 → 世羅学校給食センター
 - ・ 甲山自治センター旧デイサービス → 健康づくり事業での活用
 - ・ 世羅町役場別館 → 民間貸付による活用
- 世羅町保健福祉センターに増築して子育て世代が利用できるフリースペースを整備する予定。センター内で実施している子育て支援事業を安心安全に行うため、事業用スペースの改修予定。（都市構造再編集中支援事業活用予定）（子育て支援課）
- 世羅町保健福祉センター西職員駐車場へ共同生活援助（グループホーム）等施設を建設予定。（福祉課）
- 既存の給食センターを再編整備し、保育所給食と複合施設の新給食センター建設に既に着手（学校教育課）
- 中央図書館方式による図書館整備（場所、時期未定）（社会教育課）
- せらにし郷土民俗資料館の移転（世羅郷土民俗資料館と併合、未実施）（社会教育課）